

女性に多いがんを知ろう がん検診で早期発見



「がん」と聞いてみなさんはどのように感じますか。日本は、2人に1人が「がん」にかかり、3人に1人はがんで亡くなると言われるほどの「がん大国」です。近年、女性特有のがんは、子育て世代や働き盛りの人に多い傾向にあります。がんは、早期に発見できれば9割は完治すると言われていますが、早期に発見する力ギとなるがん検診の受診率は伸び悩んでいるのが現状です。がん大国だからこそ、がん検診で早期に発見し、治療をすることが大切です。

健康増進課（☎425595）。

乳がん

日本人女性の
12人に1人はかかるがん

一年間で乳がんが診断される女性がおよそ53,000人と言われます。40歳から50歳の乳がん発見率はこの20年間で約2倍に増加しています。乳がんで亡くなる人も、全がん死亡の25%を占めています。年代別で見ると、40歳から50歳代が多いと言われますが、ほかの年代でもがんは毎年発見されています。ご自身のことと捉えて毎年検診を受けましょう。乳がんは唯一自己検診でも発見できるがんと言われます。月に一度の自己検診も併せて実施しましょう。検診を受けて、精密検査が必要と言われても、すぐにがんに結びつく訳ではありません。怖がらず必ず受診をしましょう。

大腸がん

女性の死亡率第1位

以前は、日本人に少ないと言われていた大腸がんですが、食の欧米化などで増加傾向にあります。女性は「更年期に入ると、大腸がんの防御因子と言われる女性ホルモンが減少する」「ダイエットによる食生活の偏り」「便秘で腸内環境を悪化させる」「運動不足や肥満」「喫煙と飲酒」などの原因で大腸がんを発症しやすいと言われています。大腸がんは進行するまで自覚症状がほとんどありません。しかし早期の段階で発見されれば95%以上は完治します。生活習慣を改め大腸がんを予防することや、検診を受け、精密検査が必要と言われたら「恥ずかしい」などとためらわず、早めに医療機関へ受診をしましょう。

子宮頸がん

若い世代に
急増しているがん

子宮頸がんは、子宮の入り口にある頸部にできるがんです。近年、若い世代に患者が増えている傾向にあります。子宮頸がんは、がんになるまでの過程が明らかであり、定期的な検診で、がんになる前の状態で発見できると言われています。若い世代から安心して定期的に検診を受けましょう。※最終面では、日本医科大学千葉北総病院の専門医が子宮がん検診について寄稿しています。ぜひご覧ください。

健康増進課では、がんに関心をもってもらうと啓発事業に取り組んでいます。

日本医科大学千葉北総病院にご協力をいただき、がんに関する最新情報を本紙で3回にわたり紹介しました。また、若い世代への取り組みとして、日本医科大学看護専門学校の学生を対象に子宮頸がん検診のミニ講話やアンケートによる意識調査を実施しています。ほかにも、女性の健康増進を推進するため、市制20周年記念事業として、子宮がんをテーマにがん予防講演会を開催します。ご自身やご家族の健康について考えてみませんか。



がん予防講演会（市民公開講座）

大切にしたい自分の体
～2度の子宮がんを経験して～



講師 原 千晶さん
よつばの会代表
タレント・女優

10月15日(土)
午後2時～3時30分（受け付け1時～）

印西市文化ホール
定員 500名（先着順）
参加費無料

市ホームページ「電子申請サービス」
申込みフォーム。または、右記QR
コードから。



申し込みQRコード

健康増進課成人保健班（☎425595）

平成 27 年度 行政評価結果を公表 します

市は市民満足度の向上を目指し、基本計画の進捗管理として施策の達成度や事業の「有効性」「効率性」「妥当性」などを検証する行政評価を毎年行っています。今回、第1次基本計画の55施策と、平成27年度に実施計画事業として掲げた205事業を評価したのでお知らせします。評価結果は、次期実施計画に反映させるとともに来年度の予算編成における判断材料として活用します。

企画政策課企画政策班（☎内線 471）。

施策評価

各施策を「施策の目的達成の手段（事業）」「成果（指標の目標値達成状況）」の2つの視点から総合評価を行い、今後の方向性について検討するものです。

	選択肢	施策数	割合 (%)	計
施策の目的達成の手段(事業)に対する評価	妥当である	4	7.3	55
	概ね妥当である	44	80.0	
	一部見直しが必要	6	10.9	
	全面的に見直しが必要	1	1.8	
	未実施・活動なし	0	0	
	全て目標値を達成した	4	7.3	
成果（指標の目標値達成状況）に対する評価	全体的にほぼ目標値を達成した	45	81.8	55
	全体的に目標値をやや下回る	5	9.1	
	全体的に目標値を大きく下回る	1	1.8	
	成果なし	0	0	
	計画以上に施策を推進できた	1	1.8	
総 合 評 価	ほぼ計画どおり施策を推進できた	45	81.8	55
	施策の進捗がやや計画を下回る	8	14.6	
	施策の進捗が計画よりも大きく下回る	1	1.8	
	施策の推進が図れなかった	0	0	
	現行の事業体系で推進していく	39	70.9	55
今後の施策展開の方向性	事業の一部見直し推進していく	16	29.1	
	施策の推進を一時休止する	0	0	
	施策自体を見直す必要がある	0	0	

施策と事業の評価の詳細は、行政資料コーナー、市ホームページをご覧ください。

事業評価

各事業を「活動」と「成果」の2つの視点から総合評価を行い、今後の方向性について検討するものです。

	選択肢	事業数	割合 (%)	計
活動に対する評価	目標値を上回る	36	17.5	205
	ほぼ目標値どおりである	139	67.8	
	目標値をやや下回る	16	7.8	
	目標値を下回る	10	4.9	
	活動なし	2	1.0	
	計画なし（当年度活動予定なし）	2	1.0	
成果に対する評価	目標値を上回る	39	19.0	205
	ほぼ目標値どおりである	103	50.2	
	目標値をやや下回る	23	11.2	
	目標値を下回る	12	5.9	
	成果なし	1	0.5	
	計画なし（目標設定なし）	27	13.2	
総 合 評 価	計画以上の活動実績・成果であった	34	16.6	205
	ほぼ計画どおりの活動実績・成果であった	136	66.3	
	計画をやや下回る活動実績・成果であった	20	9.8	
	計画を下回る活動実績・成果であった	12	5.8	
	活動実績・成果なし	2	1.0	
	未評価（当年度事業未実施）	1	0.5	
今後の方向性	事業を継続（現行のまま継続）	176	85.9	205
	事業を見直す（拡大・縮小）	9	4.4	
	事業を見直す（そのほか）	14	6.8	
	休止・廃止	0	0	
	終了（本年度終了または次年度終了予定）	6	2.9	